

JESCO 豊田PCB廃棄物処理事業だより(No.132)

1. 分析室での小火発生について

2月27日(金)午後3時前、分析室内のドラフトチャンバー(揮発性溶剤等を扱う際に、安全のために使用する局所排気装置)内でサンプル瓶の洗浄を行い、洗浄廃液を廃液容器(ポリ容器)に移そうとした際、小火が発生しました。

サンプル瓶



直ちに消火器を用いて消火しました。

ドラフトチャンバーの排気はオンラインモニターで監視していますが、異常はなく、さらに活性炭吸着装置を通してしているので、外部への影響はありませんでした。

豊田施設では、PCB油の無害化処理を行う毎に、サンプルを採取して、処理完了を確認するための分析を行っています。

サンプル瓶は、繰り返し使用するため、分析室で水及び有機溶剤(ヘキサン、アセトン)を用いて洗浄を行っています。

原因については、無害化処理に使用する薬剤の化学反応による発熱や静電気による着火等を検討しましたが、揮発した有機溶剤に静電気が原因となって着火した可能性が最も高いと考えられます。

直ちに以下の対策を実施しました。

- ① 廃液容器は帯電しにくいガラス製に変更した。
- ② サンプル瓶の洗浄に使用した水と有機溶剤を同じ容器に廃棄していたが、薬剤の化学反応による発熱を防ぐため、別々の廃液用容器(容量は各1ℓ)に廃棄することとした。

今後は、廃棄溶剤の管理をしっかり行い、再発防止に努めてまいります。



ここでサンプル瓶の洗浄作業中に発火した

○事故に係るJESCOの評価

周辺環境への影響	人身への影響	事業への影響
影響なし	影響なし	影響なし

2. 豊田事業部会について

2月26日(木)に、平成26年度第2回「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会豊田PCB処理事業部会」(委員:学識経験者4名)を開催しました。

部会には、オブザーバーとして、環境省、豊田市及び愛知県からもご出席いただきました。

今回の部会では、豊田施設の操業状況を報告するとともに、事業期間の延長に伴い、その間の安全操業を確保するための長期保全計画の概要や、昨年10月に発生した油圧ユニットからの作動油の漏洩に係る原因と対策等を説明しました。



部会各位の意見を踏まえ、引き続き安全で確実な操業の維持に努力していきます。

3. PCB廃棄物保管事業者(少量)の皆さまに対する説明会について



豊田PCB廃棄物処理施設では少量保管事業者(保管台数が20台未満の事業者)の皆さまに向けてPCB処理に関する説明会を定期的を開催してまいりました。

3月は岐阜県内で3回(高山市、多治見市、大垣市)、三重県内で3回(鈴鹿市、伊勢市、津市)開催し、合わせて248社の事業者の方々にご出席いただきました。

ご登録いただいている少量保管事業者様へのお声掛けは一通り完了いたしました。今後は各県市と連携して個別に処理計画をご提案してまいりますので、処理促進にご協力をお願い申し上げます。

4. 豊田PCB廃棄物処理施設の運転状況のご報告

種 別		平成26年度 処理台数	平成26年度ま での進捗率
コンデンサ類		6502 台	72.7 %
ト ラ ン ス 類	大 型	66 台※	81.8 %
	小 型	68 台	88.8 %
	車 載 型	60 台	33.6 %
廃PCB等		112 本	64.1 %
保管容器		210 台	19.2 %

平成26年度の処理実績及び平成26年度までの進捗率は左表のとおりです。

引き続き、安全かつ確実に処理を継続してまいります。

※大型トランスのパーツを含む

5. 施設見学について

平成26年度の施設見学者数

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	計
団体数	14団体	17団体	16団体	9団体	56団体
見学者数	70名	41名	88名	18名	217名

保管事業者の皆様をはじめ、行政の方々や各団体など、多くの方々に当施設をご見学いただき、施設見学を通じてPCB廃棄物の処理状況等について理解を深めていただいております。

施設見学をご希望の方は下記の【豊田PCB処理事業HP】をご参照のうえ、0565-25-3110までお問い合わせください。



デジ丸

問い合わせ先

アザラシのピーちゃん

中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO) 豊田PCB処理事業所 0565-25-3110

【豊田PCB処理事業HP】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>